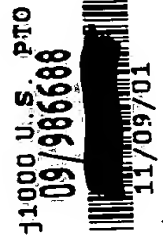


November 9, 2001

BOX PATENT APPLICATION
Commissioner for Patents
Washington, D.C. 20231

Re: Application of Masahiko KOMATSUBARA, Masahiro IMAMACHI,
Hiroshi INAKAZU, and Tsutomu TOMIMITSU
CONTROL LEVER SYSTEM FOR PARKING BRAKE
Assignee: HONDA GIKEN KOGYO KABUSHIKI KAISHA
Our Ref. Q66733



Dear Sir:

Attached hereto is the application identified above including seventeen (17) sheets of the specification, including the claims and abstract, and eleven (11) sheets of drawings. The executed Declaration and Power of Attorney and Assignment will be submitted at a later date.

The Government filing fee is calculated as follows:

Total claims	<u>12</u> - 20	=	<u> </u>	x	\$18.00	=	<u> </u>	\$0.00
Independent claims	<u>2</u> - 3	=	<u> </u>	x	\$84.00	=	<u> </u>	\$0.00
Base Fee								\$740.00
TOTAL FEE								<u>\$740.00</u>

A check for the statutory filing fee of \$740.00 is attached. You are also directed and authorized to charge or credit any difference or overpayment to Deposit Account No. 19-4880. The Commissioner is hereby authorized to charge any fees under 37 C.F.R. §§ 1.16 and 1.17 and any petitions for extension of time under 37 C.F.R. § 1.136 which may be required during the entire pendency of the application to Deposit Account No. 19-4880. A duplicate copy of this transmittal letter is attached.

Priority is claimed from November 13, 2000 based on Japanese Application No. 2000-345095. The priority document is enclosed herewith.

Respectfully submitted,
SUGHRUE MION, PLLC

Attorneys for Applicant

By


Peter D. Olexy

Registration No. 24,513

PDO/rwl

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2000年11月13日

出 願 番 号

Application Number:

特願2000-345095

出 願 人

Applicant(s):

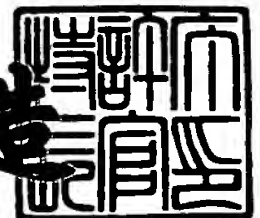
本田技研工業株式会社

11000 U.S. PRO
09/986688
11/09/01

2001年 9月14日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

及 川 耕 造



出証番号 出証特2001-3085329

【書類名】 特許願

【整理番号】 H100259301

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 B60T 7/10
G05G 1/04

【発明の名称】 パーキングブレーキの操作レバー装置

【請求項の数】 4

【発明者】

【住所又は居所】 埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研
究所内

【氏名】 小松原 政彦

【発明者】

【住所又は居所】 埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研
究所内

【氏名】 今町 真浩

【発明者】

【住所又は居所】 埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研
究所内

【氏名】 稲数 洋

【発明者】

【住所又は居所】 埼玉県和光市中央1丁目4番1号 株式会社本田技術研
究所内

【氏名】 富満 勉

【特許出願人】

【識別番号】 000005326

【氏名又は名称】 本田技研工業株式会社

【代表者】 吉野 浩行

【代理人】

【識別番号】 100071870

【弁理士】

【氏名又は名称】 落合 健

【選任した代理人】

【識別番号】 100097618

【弁理士】

【氏名又は名称】 仁木 一明

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 003001

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 パーキングブレーキの操作レバー装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 車両のインテリア装備品（2，33）に，パーキングブレーキ用操作レバー（10）を，それがパーキングブレーキを作動する作動位置（B）と，パーキングブレーキの作動を解除する解除位置（A）との間を回動し得るように取り付けると共に，該操作レバー（10）が解除位置（A）を占めるとき，それを収容する凹部（11）を設けた，パーキングブレーキの操作レバー装置において，

前記操作レバー（10）を前記作動位置（B）から解除位置（A）に戻す際に操作する解除ノブ（25）を該操作レバー（10）のグリップ（13）の，前記凹部（11）の開放面に対応する周面に配設したことを特徴とする，パーキングブレーキの操作レバー装置。

【請求項 2】 車両のインテリア装備品（2，33）に，パーキングブレーキ用操作レバー（10）を，それがパーキングブレーキを作動する作動位置（B）と，パーキングブレーキの作動を解除する解除位置（A）との間を回動し得るように取り付けると共に，該操作レバー（10）が解除位置（A）を占めるとき，それを収容する凹部（11）を設けた，パーキングブレーキの操作レバー装置において，

前記操作レバー（10）を前記作動位置（B）から解除位置（A）に戻す際に操作する解除ノブ（25）を該操作レバー（10）のグリップ（13）の，前記凹部（11）の底面に対向する周面に配設したことを特徴とする，パーキングブレーキの操作レバー装置。

【請求項 3】 請求項 1 又は 2 記載のパーキングブレーキの操作レバー装置において，

前記凹部（11）内壁とグリップ（13）頭部との間には，前記操作レバー（10）の解除位置（A）を規定して前記インテリア装備品（2，33）及び操作レバー（10）の外面を略面一にする位置決め手段（28）を設けたことを特徴とする，パーキングブレーキの操作レバー装置。

【請求項 4】 請求項 1 ～ 3 の何れかに記載のパーキングブレーキの操作レバー装置において、

前記グリップの頭部に、前記凹部の底面に向かって突出して、ドライバの該グリップ（13）に対する頭部側把持限界を規定する凸部（13a）を形成したことを特徴とする、パーキングブレーキの操作レバー装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、パーキングブレーキの操作レバー装置に関し、特に、車両のインストルメントパネルやセンターコンソール等のインテリア装備品に、パーキングブレーキの操作レバーを、それがパーキングブレーキを作動する作動位置と、パーキングブレーキの作動を解除する解除位置との間を回動し得るように取り付けると共に、該操作レバーが解除位置を占めるとき、それを収容する凹部を設け、もって操作レバー及びインテリア装備品の一体感を醸し出し、インテリア装備品の美観の向上を図るようにした、パーキングブレーキの操作レバー装置の改良に関する。

【0002】

【従来の技術】

かかるパーキングブレーキの操作レバー装置は、例えば米国特許第 3, 9 9 0, 3 2 2 号明細書に開示されているように、既に知られている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

ところで、従来のパーキングブレーキの操作レバーは、それを作動位置から解除位置に戻す際に操作する解除ノブをグリップの頭部に突出状態で備えている（例えば実公平 5 - 3 9 9 7 5 号公報参照）ので、このような操作レバーを前述のようにインテリア装備品に取り付けて、該操作レバーを、その解除位置でインテリア装備品の凹部に収容しようとするれば、解除ノブを操作するためのドライバの指を受容するスペースを該凹部に確保しなければならず、そのスペースがインテリア装備品と操作レバーの一体感を損ない、インテリア装備品の美観に悪影響を

及ぼすことになる。

【 0 0 0 4 】

本発明は、かゝる事情に鑑みてなされたもので、解除ノブを備える操作レバーとインテリア装備品の一体感を醸し出すことができ、インテリア装備品の美観の向上に寄与し得る、前記パーキングブレーキの操作レバー装置を提供することを目的とする。

【 0 0 0 5 】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するために、本発明は、車両のインテリア装備品に、パーキングブレーキ用操作レバーを、それがパーキングブレーキを作動する作動位置と、パーキングブレーキの作動を解除する解除位置との間を回動し得るように取り付けると共に、該操作レバーが解除位置を占めるとき、それを収容する凹部を設けた、パーキングブレーキの操作レバー装置において、前記操作レバーを前記作動位置から解除位置に戻す際に操作する解除ノブを該操作レバーのグリップの、前記凹部の開放面に臨む周面に配設したことを第1の特徴とする。

【 0 0 0 6 】

この第1の特徴によれば、操作レバーがその解除位置ではインテリア装備品の凹部に収容され、しかも解除ノブが凹部の開放面に対応するグリップの周面に配設されることで、凹部内壁とグリップ頭部との間隙を、解除ノブに何等干渉されることがなく狭めることが可能となり、インテリア装備品及び操作レバーの一体感を効果的に醸し出して、インテリア装備品の美観の向上を図ることができる。また解除ノブがグリップの周面に存在することから、グリップを把持する際、グリップを把持した指をもって解除ノブを操作することが可能となり、即ち従来のように親指を態々グリップ頭部へ動かす必要がなく、解除ノブの操作性が良好となる。

【 0 0 0 7 】

また本発明は、車両のインテリア装備品に、パーキングブレーキ用操作レバーを、それがパーキングブレーキを作動する作動位置と、パーキングブレーキの作動を解除する解除位置との間を回動し得るように取り付けると共に、該操作レバ

ーが解除位置を占めるとき、それを収容する凹部を設けた、パーキングブレーキの操作レバー装置において、前記操作レバーを前記作動位置から解除位置に戻す際に操作する解除ノブを該操作レバーのグリップの、前記凹部の底面に対向する周面に配設したことを第2の特徴とする。

【0008】

この第2の特徴によっても、インテリア装備品の凹部内壁とグリップ頭部との間隙を、解除ノブに何等干渉されることなく狭めることが可能となり、インテリア装備品及び操作レバーの一体感を効果的に醸し出して、インテリア装備品の美観の向上を図ることができる。また解除ノブがグリップの周面に存在することから、グリップを把持する際、グリップを把持した指をもって解除ノブを操作することが可能となり、解除ノブの操作性が良好となる。その上、解除ノブが凹部内に隠れることになり、操作レバーの美観の向上をも図ることができる。

【0009】

さらに本発明は、第1又は第2の特徴に加えて、前記凹部内壁とグリップ頭部との間には、前記操作レバーの解除位置を規定して前記インテリア装備品及び操作レバーの外面を略面一にする位置決め手段を設けたことを第3の特徴とする。

【0010】

この第3の特徴によれば、インテリア装備品及び操作レバーの外面に連続性を与えて、インテリア装備品及び操作レバーの一体感を一層効果的に醸し出することができる。しかも位置決め手段はインテリア装備品の表面に現れないから、インテリア装備品の美観を保つ上に有利であると共に、前記凹部には、グリップを把持するドライバの指の挿入スペースを従前通り確保することができる。

【0011】

さらにまた本発明は、第1～第3の特徴の何れかに加えて、前記グリップの頭部に、前記凹部の底面に向かって突出して、ドライバの該グリップに対する頭部側把持限界を規定する凸部を形成したことを第4の特徴とする、パーキングブレーキの操作レバー装置。

【0012】

この第4の特徴によれば、ドライバがグリップを把持する際、ドライバの指が

グリップの頭部から食み出ることを前記凸部により阻止することができ、したがって操作レバーを作動位置から解除位置に戻す際に、グリップを把持した指がグリップの頭部と前記凹部の内壁との間に挟まれることを未然に防ぐことができる。

【0013】

以上において、インテリア装備品は、後述する本発明の実施例中のコンソールボックス2及びセンタコンソール33に対応する。

【0014】

【実施例の形態】

本発明の実施の形態を、添付図面に示す本発明の実施例に基づいて説明する。

【0015】

図1～図7は本発明の第1実施例を示すもので、図1は操作レバーを解除位置に戻した状態で示すパーキングブレーキの操作レバー装置の斜視図、図2は操作レバーを作動位置に回動した状態で示す同操作レバー装置の斜視図、図3は図1の正面図、図4は図3の4-4線断面図、図5は操作レバーを作動位置に回動した状態を示す、図4に対応した断面図、図6は図4の6-6線断面図、図7は図6の7-7線断面図である。図8は本発明の第2実施例を示す、図4に対応した断面図、図9は本発明の第3実施例を示す、図4に対応した断面図、図10は本発明の第4実施例を示す、図9に対応した断面図、図11は本発明の第5実施例に係るパーキングブレーキの操作レバー装置の斜視図である。

【0016】

最初に、まず、図1～図7に示す本発明の第1実施例について説明する。まず、図1～図3において、自動車のインストルメントパネル1の中央部に形成されたコンソールボックス2に、カーナビゲーション3、空調用空気吹き出しグリル4、オーディオ機器5、小物入れ6等が装備される。またコンソールボックス2の、運転席側の側縁部（図示例では右側縁部）には、パーキングブレーキ用の操作レバー10が配設される。この操作レバー10は、コンソールボックス2の、運転席側の側縁部に形成された切欠き状の凹部11に収容される解除位置A（図1の状態）と、その凹部11から脱出した作動位置B（図2の状態）との間を回

動し得るようになっている。

【0017】

図4及び図5に示すように、操作レバー10は、鋼板製で中空のグリップ部12aを持つレバー本体12と、そのグリップ部12aの外周面を被覆する合成樹脂製のグリップ13とから構成される。レバー本体12の基端部は、コンソールボックス2の前面壁を貫通してその内部に達していて、インストルメントパネル1の支持用フレーム7に固着されたブラケット14に枢軸15を介して取り付けられる。レバー本体12の基端部には、図示しないパーキングブレーキの作動レバーに連なるブレーキワイヤ16が接続される。

【0018】

前記ブラケット14には、枢軸15を中心とした扇形のラチェットギヤ17と、このラチェットギヤ17の一端に連なる平坦面18とが形成され、それらに順次係合し得る爪部19aを一端に持ったラチェットボール19が支軸20を介してレバー本体12に回動可能に取り付けられる。爪部19aは、操作レバー10の解除位置Aでは平坦面18に係合し、作動位置Bではラチェットギヤ17の何処かに係合するようになっている。

【0019】

ラチェットボール19の他端には、レバー本体12のグリップ部12aに収容される連結ロッド21の一端がピボット連結され、その他端に形成されたフランジ21aと、グリップ部12aの内壁に突設された座片22との間に、連結ロッド21をラチェットボール19及びラチェットギヤ17の係合方向に付勢する作動ばね23が圧縮状態で装着される。

【0020】

図3、図6及び図7に示すように、グリップ部12aの運転席側側面には、グリップ13に埋設されるノブホルダ24が固着されており、このノブホルダ24に解除ノブ25が連結ロッド21の軸方向に摺動自在に装着される。この解除ノブ25は、グリップ部12aの側壁に設けられた長孔26を貫通して前記フランジ21aの外端面に当接する押圧子25aを備えている。

【0021】

ところで、操作レバー 1 0 をその解除位置 A で収容するコンソールボックス 2 の前記凹部 1 1 は、運転席側の側面と、車体後方側の後面とが開放されており、したがって、前記解除ノブ 2 5 は、その凹部 1 1 の開放側面に対応したグリップ 1 3 の側面に配設されることになる。これに伴い、グリップ 1 3 の頭部と、それが対向する前記凹部 1 1 の上端壁との間隙 g は、解除ノブ 2 5 に何等干渉されることなく、操作レバー 1 0 の回動を許容するだけの小間隙とされる。凹部 1 1 の側壁及び底壁とグリップ 1 3 との間には、グリップ 1 3 を把持するドライバの手の挿入を可能にするスペース 2 7 が設けられる。

【 0 0 2 2 】

またグリップ 1 3 の頭部と前記凹部 1 1 の上端壁との間には、操作レバー 1 0 の解除位置 A を規定する位置決め手段 2 8 が設けられる。この位置決め手段 2 8 は、凹部 1 1 の上端壁に隆起形成された突起 2 9 と、この突起 2 9 に当接すべくグリップ 1 3 の頭部に形成された段部 3 0 とで構成される。しかも、これら突起 2 9 及び段部 3 0 は、両者の当接により、操作レバー 1 0 の解除位置 A を決定したとき、コンソールボックス 2 の上面とグリップ 1 3 の上面とが略面一となるように配置される。

【 0 0 2 3 】

さらにグリップ 1 3 には、グリップ 1 3 の頭部には、前記凹部 1 1 の底面に向かって突出して、ドライバの該グリップ 1 3 に対する頭部側把持限界を規定する凸部 1 3 a が形成される。

【 0 0 2 4 】

次に、この実施例の作用について説明する。

【 0 0 2 5 】

ドライバがグリップ 1 3 を把持して操作レバー 1 0 を、図 5 に示すように作動位置 B へ回動すると、ブレーキワイヤ 1 6 を牽引してパーキングブレーキを作動することができる。その際、解除ノブ 2 5 を操作しなくても、ラチェットボール 1 9 の爪部 1 9 a はラチェットギヤ 1 7 上を滑るのみで、操作レバー 1 0 の作動位置 B への回動を邪魔しないが、操作レバー 1 0 を作動位置 B で停止すると、ラチェットギヤ 1 7 及びラチェットボール 1 9 が作動ばね 2 3 との協働により一方

向係止機能を発揮して、操作レバー 1 0 は、そのときの回動位置、即ち作動位置 B でロックされる。

【 0 0 2 6 】

パーキングブレーキの作動を解除するには、先ず、操作レバー 1 0 を一旦作動方向へ引き上げながら解除ノブ 2 5 を連結ロッド 2 1 側に押し下げることにより、連結ロッド 2 1 を作動ばね 2 3 の付勢力に抗して動かして、ラチェットポール 1 9 をラチェットギヤ 1 7 から離脱するように回動する。その状態で操作レバー 1 0 を図 4 の解除位置 A へ回動すれば、パーキングブレーキの作動を解除することができる。

【 0 0 2 7 】

ところで、操作レバー 1 0 は、その解除位置 A ではコンソールボックス 2 の凹部 1 1 に収容され、しかも解除ノブ 2 5 は凹部 1 1 の開放側面に対応するグリップ 1 3 の側面に配設されるので、凹部 1 1 の上端壁とグリップ 1 3 の頭部との間隙 g を小間隙とすることが可能となり、その上、グリップ 1 3 の頭部と凹部 1 1 の上端壁との間に構成される位置決め手段 2 8 によって操作レバー 1 0 の解除位置 A が規定され、コンソールボックス 2 及びグリップ 1 3 の上面が略面一とされるので、コンソールボックス 2 及び操作レバー 1 0 の上面に連続性が与えられる。したがってコンソールボックス 2 及び操作レバー 1 0 の一体感を効果的に醸し出して、コンソールボックス 2 の美観の向上を図ることができる。しかも位置決め手段 2 8 はコンソールボックス 2 の表面に現れないから、コンソールボックス 2 の美観を保つ上に有利であると共に、凹部 1 1 には、グリップ 1 3 を把持するドライバの指の挿入スペース 2 7 を従前通り確保することができる。

【 0 0 2 8 】

また解除ノブ 2 5 がグリップ 1 3 の周面に存在することから、グリップ 1 3 を把持する際、グリップ 1 3 を把持した指をもって解除ノブ 2 5 を操作することが可能となり、即ち従来のように親指を態々グリップ頭部へ動かす必要がなく、解除ノブ 2 5 の操作性が良好となる。

【 0 0 2 9 】

さらにドライバが操作レバー 1 0 を作動位置 B から解除位置 A へ戻すべく、グ

リップ 1 3 を把持する際、ドライバは、グリップ 1 3 頭部の凹部 1 1 底面側に突出する凸部 1 3 a によってグリップ 1 3 に対する頭部側把持限界を感知することができ、したがって、ドライバが指 Y をグリップ 1 3 の頭部から食み出させることはなく、その指 Y がグリップ 1 3 の頭部と前記凹部 1 1 の内壁との間に挟まれることを未然に防ぐことができる。

【 0 0 3 0 】

図 8 に示す本発明の第 2 実施例は、操作レバー 1 0 の解除位置 A を規定する位置決め手段 2 8 の構成において前実施例と異なる。即ち、この第 2 実施例における位置決め手段 2 8 は、操作レバー 1 0 のグリップ 1 3 の頭部に形成された突起 2 9' と、操作レバー 1 0 の解除位置 A でこの突起 2 9' を受け止めるべくコンソールボックス 2 の凹部 1 1 の上端壁に形成される段部 3 0' とで構成される。その他の構成は、前実施例と同様であるので、図 8 中、前実施例との対応部分には同一の参照符号を付して、その説明を省略する。

【 0 0 3 1 】

次に、図 9 に示す本発明の第 3 実施例について説明する。

【 0 0 3 2 】

操作レバー 1 0 のグリップ 1 3 の解除ノブ 2 5 が、コンソールボックス 2 の凹部 1 1 の底部に向かって出沒可能に取り付けられる。即ち、解除ノブ 2 5 は、グリップ 1 3 の、凹部 1 1 の底面に対向した前面に配設される。この解除ノブ 2 5 と、連結ロッド 2 1 のフランジ 2 1 a とには、互いに斜面 3 1 a, 3 2 a を摺動可能に当接させる押圧子 3 1 及び受圧子 3 2 がそれぞれ一体に形成される。その他の構成は前記第 1 実施例と同様であるので、図 9 中、前記第 1 実施例との対応部分には同一の参照符号を付して、その説明を省略する。

【 0 0 3 3 】

而して、ドライバはグリップ 1 3 を握る指で解除ノブ 2 5 を押し込めば、解除ノブ 2 5 の押圧子 3 1 が連結ロッド 2 1 の受圧子 3 2 を作動ばね 2 3 の付勢力に抗して動かして、ラチェットボール 1 9 をラチェットギヤ 1 7 から離脱させることができ、解除ノブ 2 5 に対する操作性が良好である。

【 0 0 3 4 】

しかも、コンソールボックス 2 及び操作レバー 1 0 の一体感を効果的に醸し出すことができる点においては、前記第 1 実施例と同様であるが、解除ノブ 2 5 が凹部 1 1 内に隠れることにより、操作レバー 1 0 の美観の向上をも図ることができる。

【 0 0 3 5 】

次に、図 1 0 に示す本発明の第 4 実施例について説明する。

【 0 0 3 6 】

この第 4 実施例では、コンソールボックス 2 の凹部 1 1 の開放された後面に対応する、グリップ 1 3 の後面に解除ノブ 2 5 が配設される。その際、解除ノブ 2 5 は、グリップ 1 3 にピボット 3 4 を介して回動可能に取り付ける。

【 0 0 3 7 】

その他の構成は図 9 の第 3 実施例と同様の構成であるので、図 1 0 中、前記第 3 実施例との対応部分には同一の参照符号を付して、その説明を省略する。

【 0 0 3 8 】

上記のようにすると、ドライバはグリップ 1 3 を握ったとき、親指が解除ノブ 2 5 の箇所に自然に行くことになるので、その親指をもって解除ノブ 2 5 を軽快に押し込み操作することができる。

【 0 0 3 9 】

図 1 1 に示す本発明の第 5 実施例は、自動車のセンターコンソール 3 3 の、運転席側の上縁部に、操作レバー 1 0 の解除位置 A でのグリップ 1 3 を収容する切欠き状の凹部 1 1 が形成され、この凹部 1 1 の開放側面に臨む、グリップ 1 3 の側面に解除ノブ 2 5 が配設される。

【 0 0 4 0 】

本発明は、上記実施例に限定されるものではなく、その要旨を逸脱しない範囲で種々の設計変更が可能である。例えば、第 1 ～第 4 実施例における解除ノブ 2 5 の取り付け構造は相互に置き換えすることができる。

【 0 0 4 1 】

【発明の効果】

以上のように本発明の第 1 の特徴によれば、車両のインテリア装備品に、パー

キングブレーキ用操作レバーを、それがパーキングブレーキを作動する作動位置と、パーキングブレーキの作動を解除する解除位置との間を回動し得るように取り付けると共に、該操作レバーが解除位置を占めるとき、それを収容する凹部を設けた、パーキングブレーキの操作レバー装置において、前記操作レバーを前記作動位置から解除位置に戻す際に操作する解除ノブを該操作レバーのグリップの、前記凹部の開放面に臨む周面に配設したので、操作レバーがその解除位置でインテリア装備品の凹部に収容され、しかも解除ノブが凹部の開放面に対応するグリップの周面に配設されることで、凹部内壁とグリップ頭部との間隙を、解除ノブに何等干渉されることなく狭めることが可能となり、インテリア装備品及び操作レバーの一体感を効果的に醸し出して、インテリア装備品の美観の向上を図ることができる。その上、解除ノブがグリップの周面に存在することから、グリップを把持する際、グリップを把持した指をもって解除ノブを操作することが可能となり、即ち従来のように親指を態々グリップ頭部へ動かす必要がなく、解除ノブの操作性が良好となる。

【 0 0 4 2 】

また本発明の第2の特徴によれば、車両のインテリア装備品に、パーキングブレーキ用操作レバーを、それがパーキングブレーキを作動する作動位置と、パーキングブレーキの作動を解除する解除位置との間を回動し得るように取り付けると共に、該操作レバーが解除位置を占めるとき、それを収容する凹部を設けた、パーキングブレーキの操作レバー装置において、前記操作レバーを前記作動位置から解除位置に戻す際に操作する解除ノブを該操作レバーのグリップの、前記凹部の底面に対向する周面に配設したので、第1の特徴による場合と同様に、インテリア装備品の凹部内壁とグリップ頭部との間隙を、解除ノブに何等干渉されることなく狭めることが可能となり、インテリア装備品及び操作レバーの一体感を効果的に醸し出して、インテリア装備品の美観の向上を図ることができ、また解除ノブがグリップの周面に存在することから、グリップを把持する際、グリップを把持した指をもって解除ノブを操作することが可能となり、解除ノブの操作性が良好となる。しかも解除ノブが凹部内に隠れることから、操作レバーの美観の向上をも図ることができる。

【 0 0 4 3 】

さらに本発明の第 3 の特徴によれば、前記凹部内壁とグリップ頭部との間には、前記操作レバーの解除位置を規定して前記インテリア装備品及び操作レバーの外表面を略面一にする位置決め手段を設けたので、インテリア装備品及び操作レバーの外表面に連続性を与えて、インテリア装備品及び操作レバーの一体感を一層効果的に醸し出すことができる。しかも位置決め手段はインテリア装備品の表面に現れないから、インテリア装備品の美観を保つ上に有利であると共に、前記凹部には、グリップを把持するドライバの指の挿入スペースを従前通り確保することができる。

【 0 0 4 4 】

さらにまた本発明の第 4 の特徴によれば、前記グリップの頭部に、前記凹部の底面に向かって突出して、ドライバの該グリップに対する頭部側把持限界を規定する凸部を形成したので、ドライバがグリップを把持する際、ドライバの指がグリップの頭部から食み出ることを前記凸部により阻止することができ、したがって操作レバーを作動位置から解除位置に戻す際に、グリップを把持した指がグリップの頭部と前記凹部の内壁との間に挟まれることを未然に防ぐことができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の第 1 実施例に係るパーキングブレーキの操作レバー装置の斜視図で、操作レバーを解除位置に戻した状態で示す。

【図 2】

操作レバーを作動位置に回動した状態で示す同操作レバー装置の斜視図。

【図 3】

図 1 の正面図。

【図 4】

図 3 の 4 - 4 線断面図。

【図 5】

操作レバーを作動位置に回動した状態を示す、図 4 に対応した断面図。

【図 6】

図 4 の 6 - 6 線断面図。

【図 7】

図 6 の 7 - 7 線断面図。

【図 8】

本発明の第 2 実施例を示す、図 4 に対応した断面図。

【図 9】

本発明の第 3 実施例を示す、図 4 に対応した断面図。

【図 1 0】

本発明の第 4 実施例を示す、図 9 に対応した断面図。

【図 1 1】

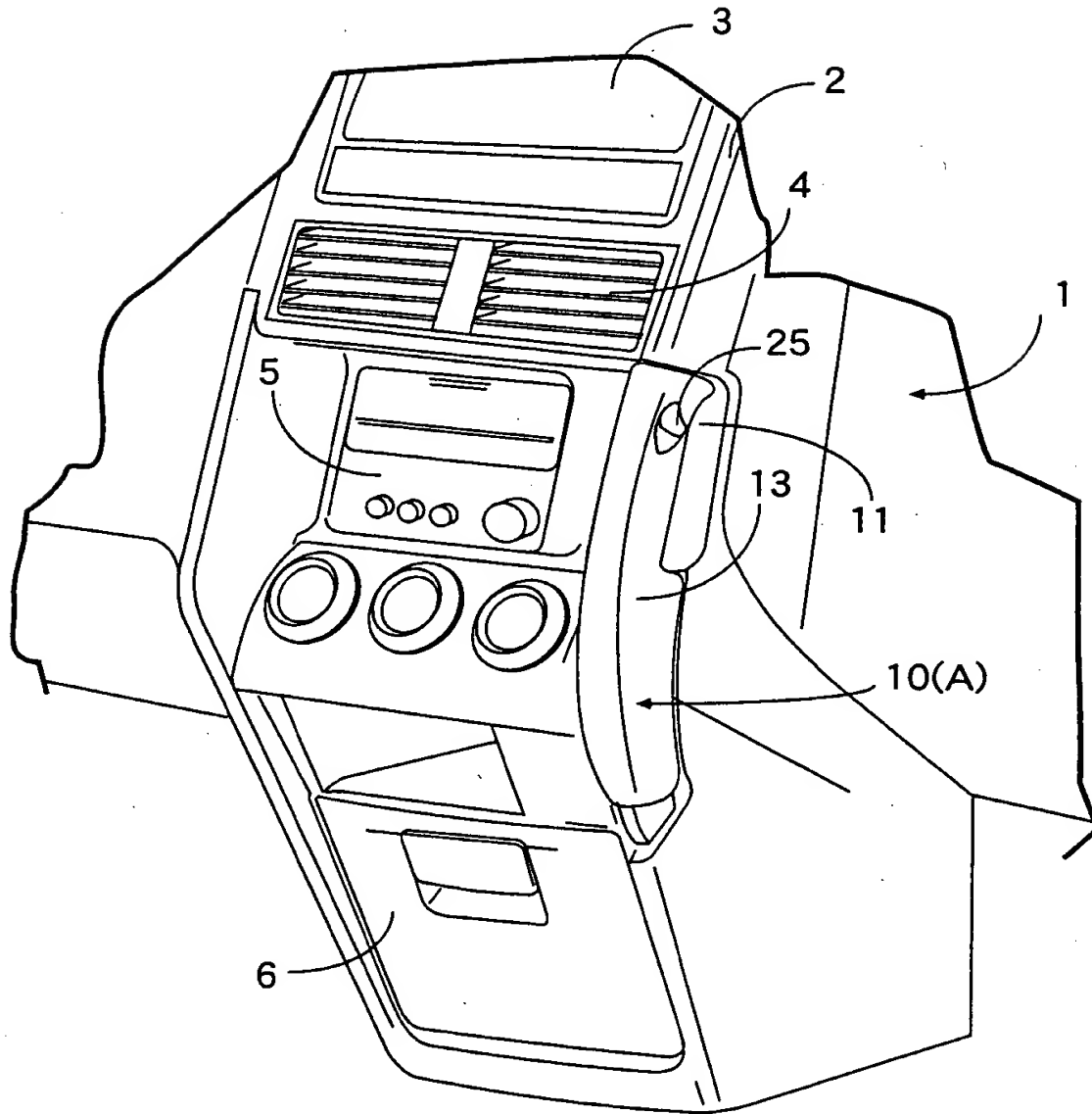
本発明の第 5 実施例に係るパーキングブレーキの操作レバー装置の斜視図。

【符号の説明】

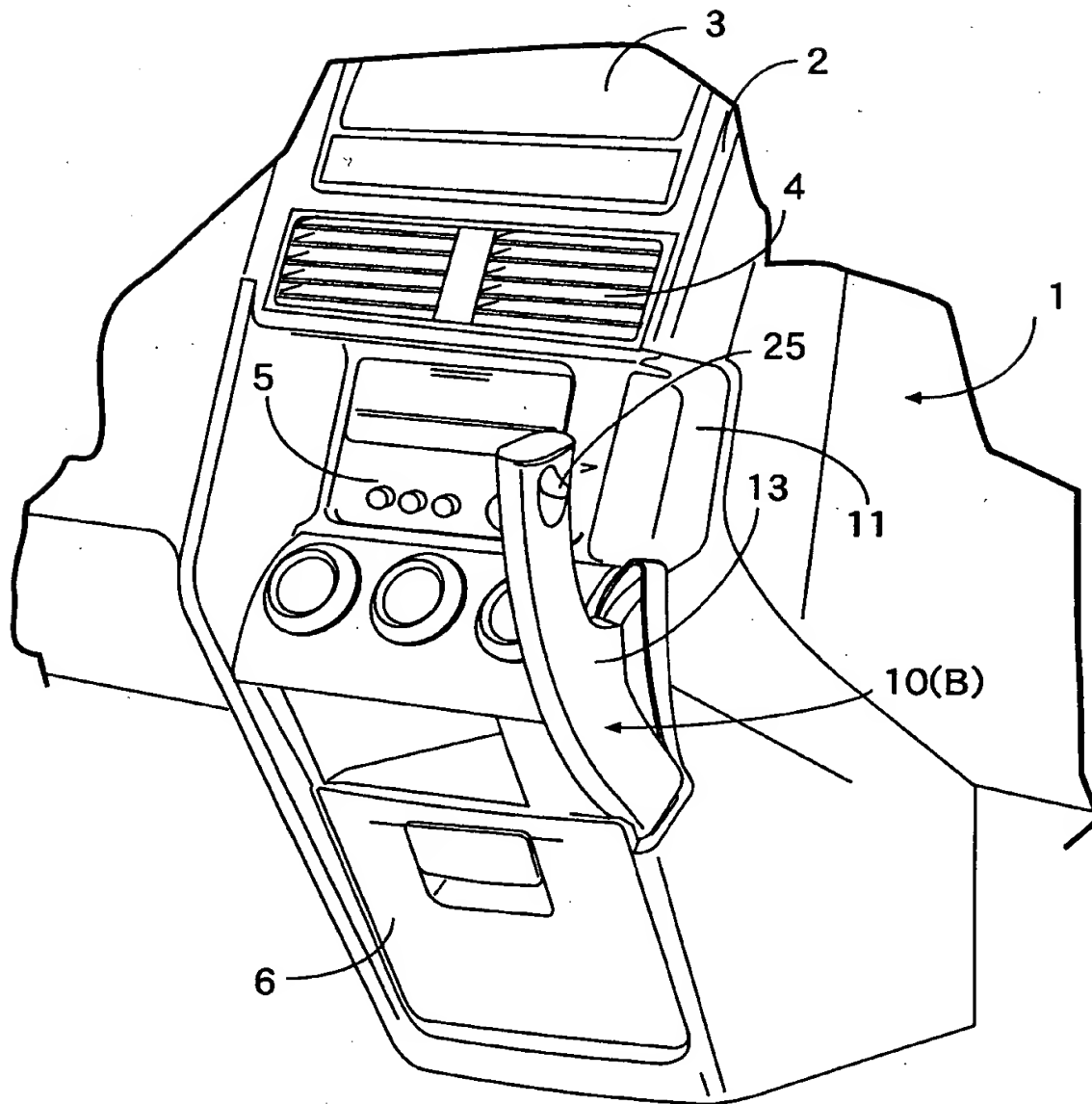
- A 操作レバーの解除位置
- B 操作レバーの作動位置
- 2 インテリア装備品（コンソールボックス）
- 1 0 操作レバー
- 1 1 凹部
- 1 3 グリップ
- 1 3 a 凸部
- 2 5 解除ノブ
- 2 8 位置決め手段
- 3 3 インテリア装備品（センターコンソール）

【書類名】 図面

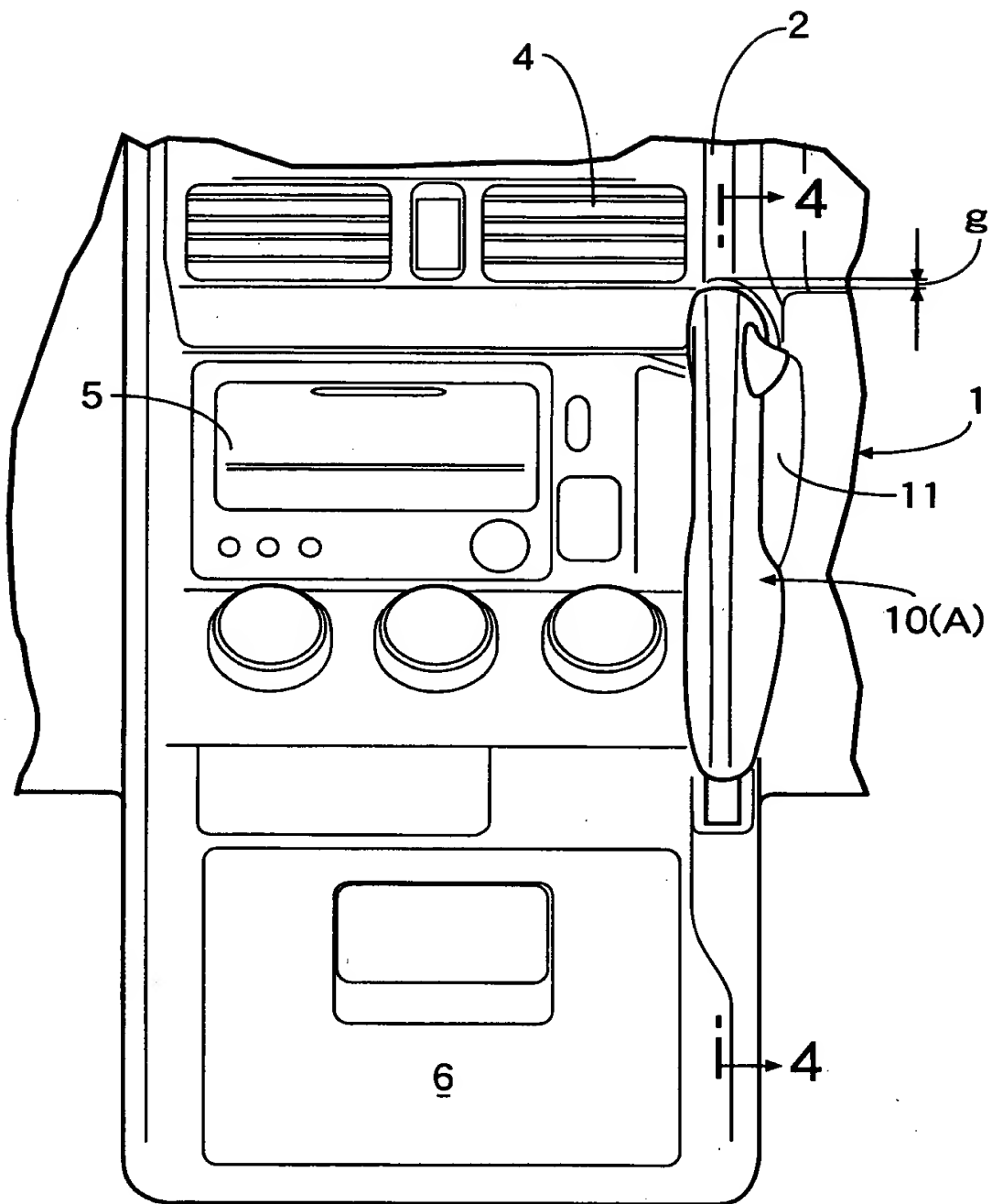
【図 1】



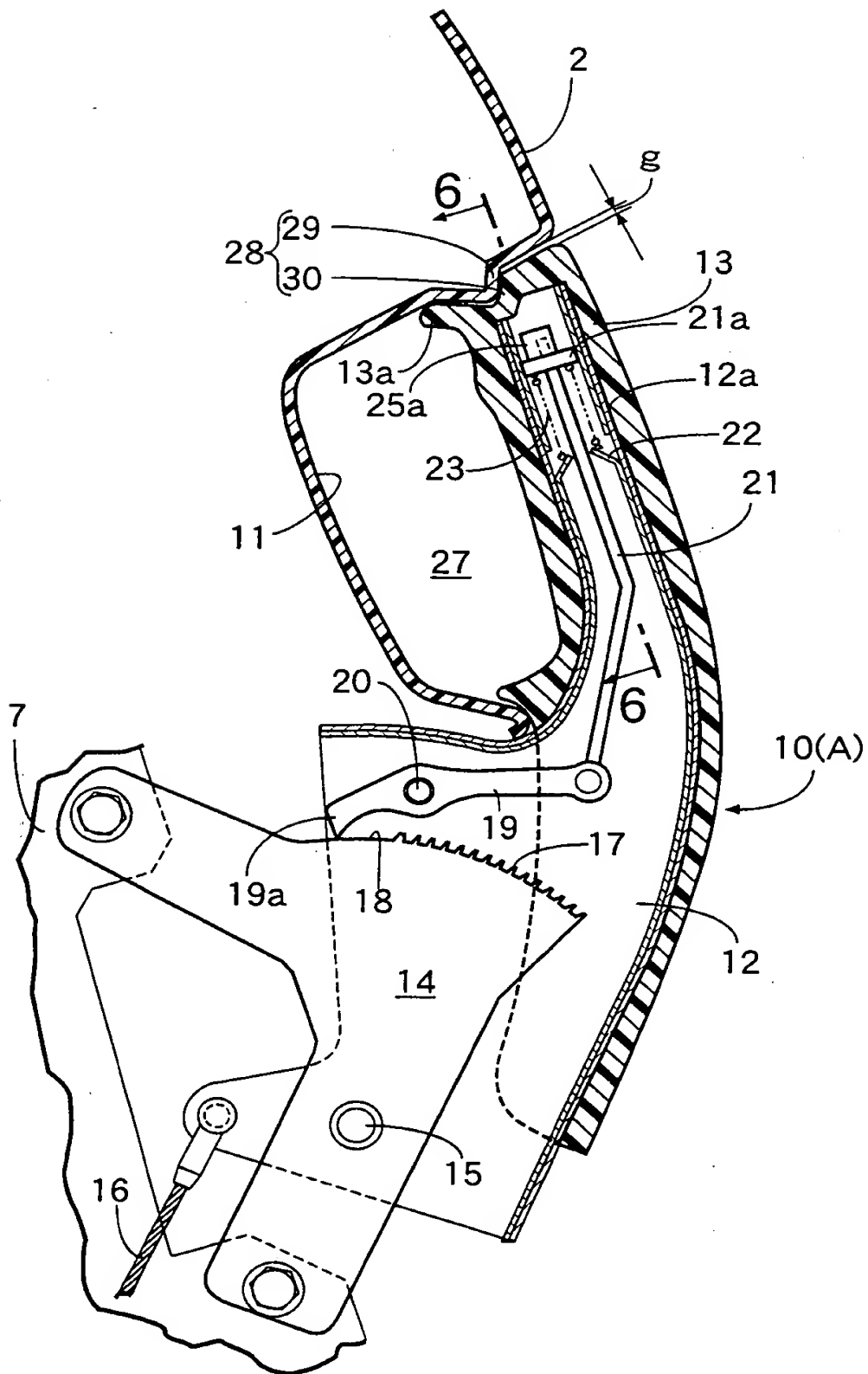
【図 2】



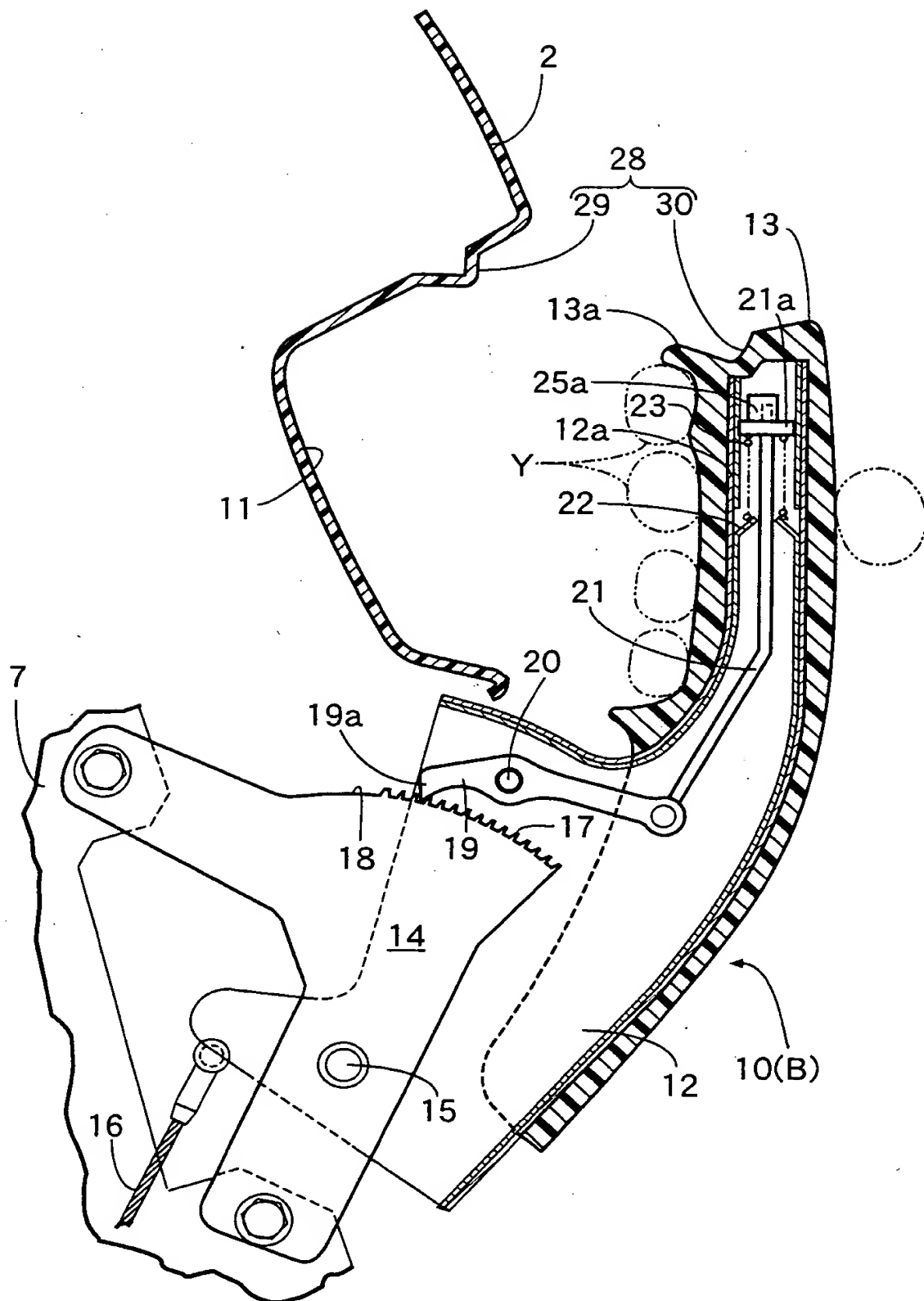
【図 3】



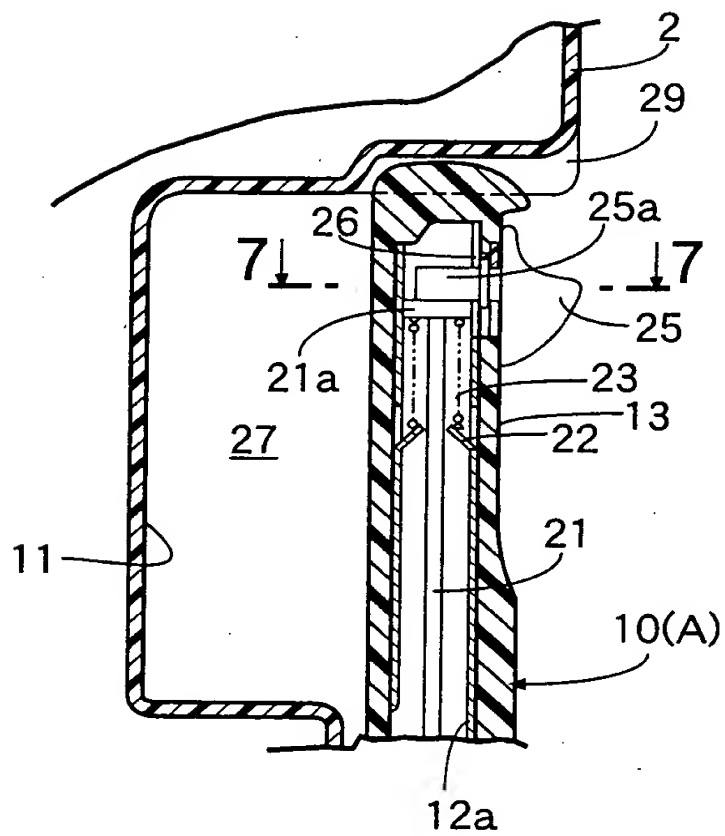
【図4】



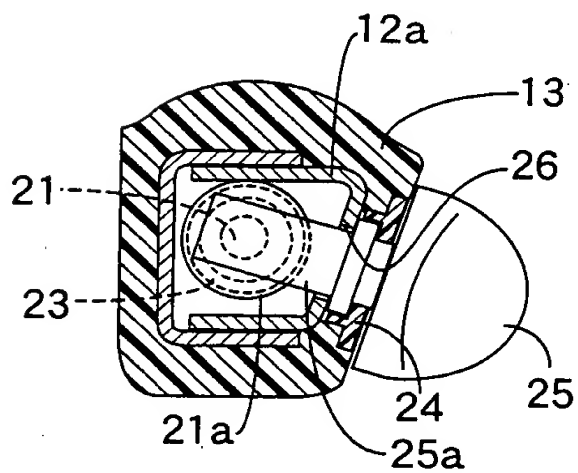
【図 5】



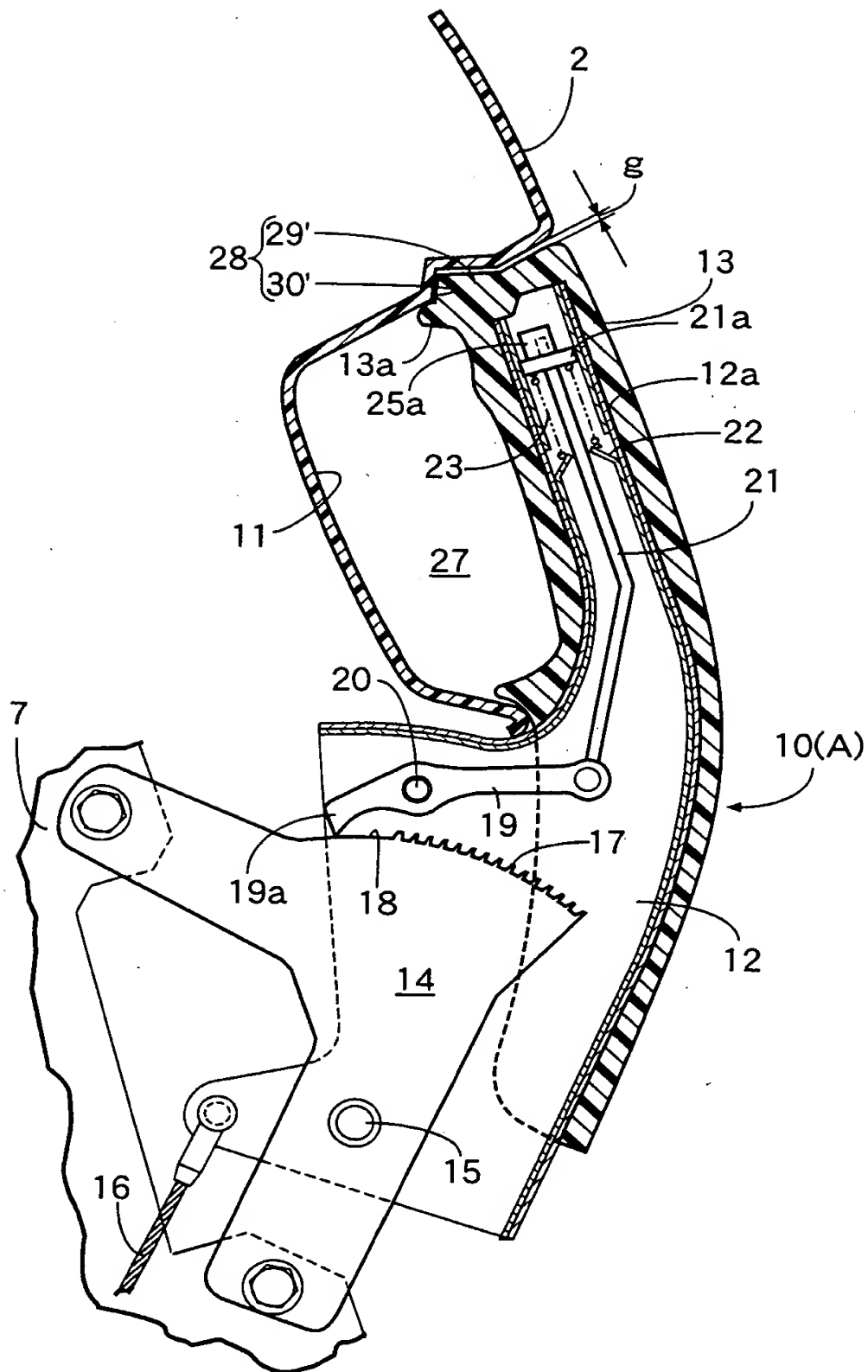
【図 6】



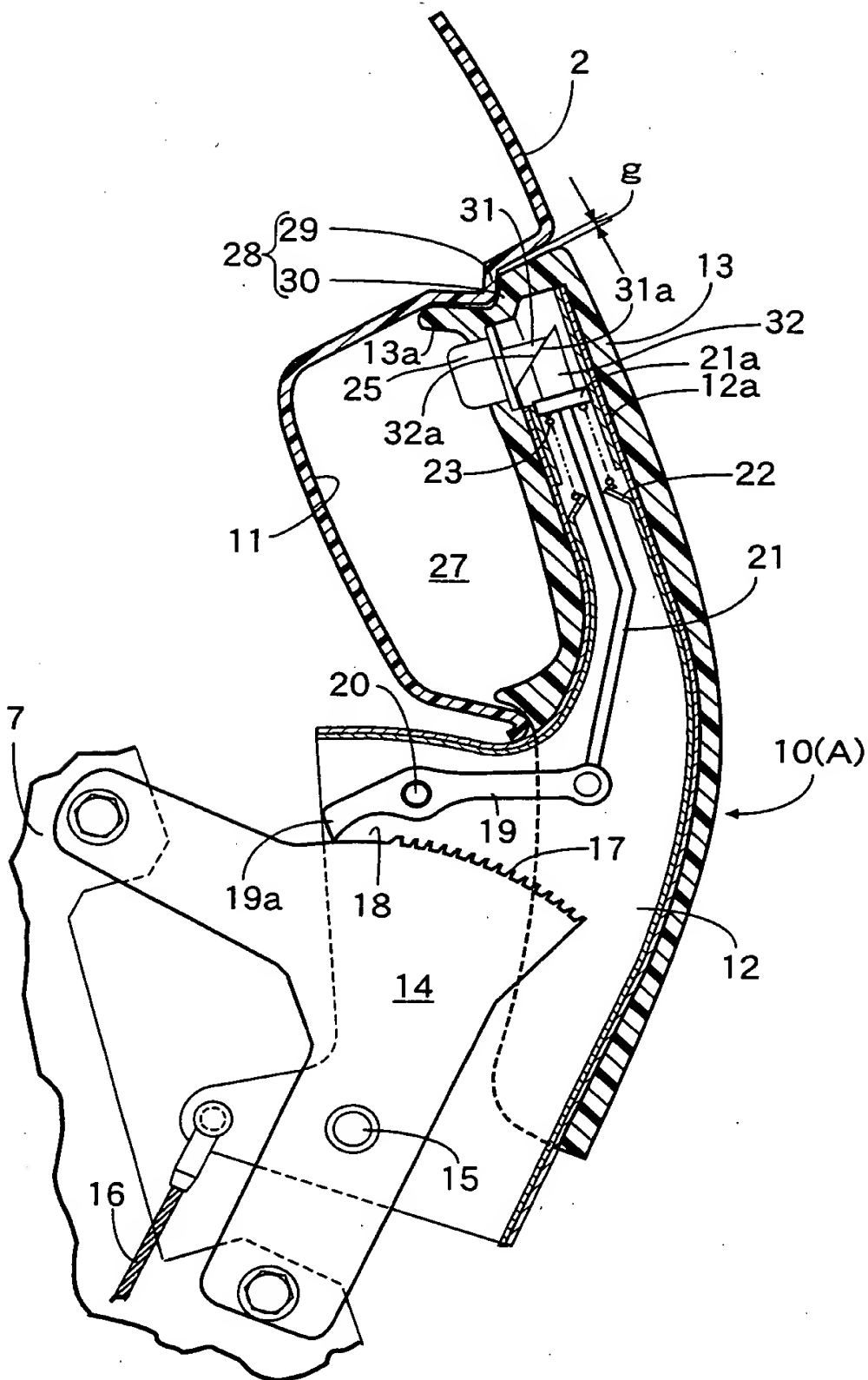
【図 7】



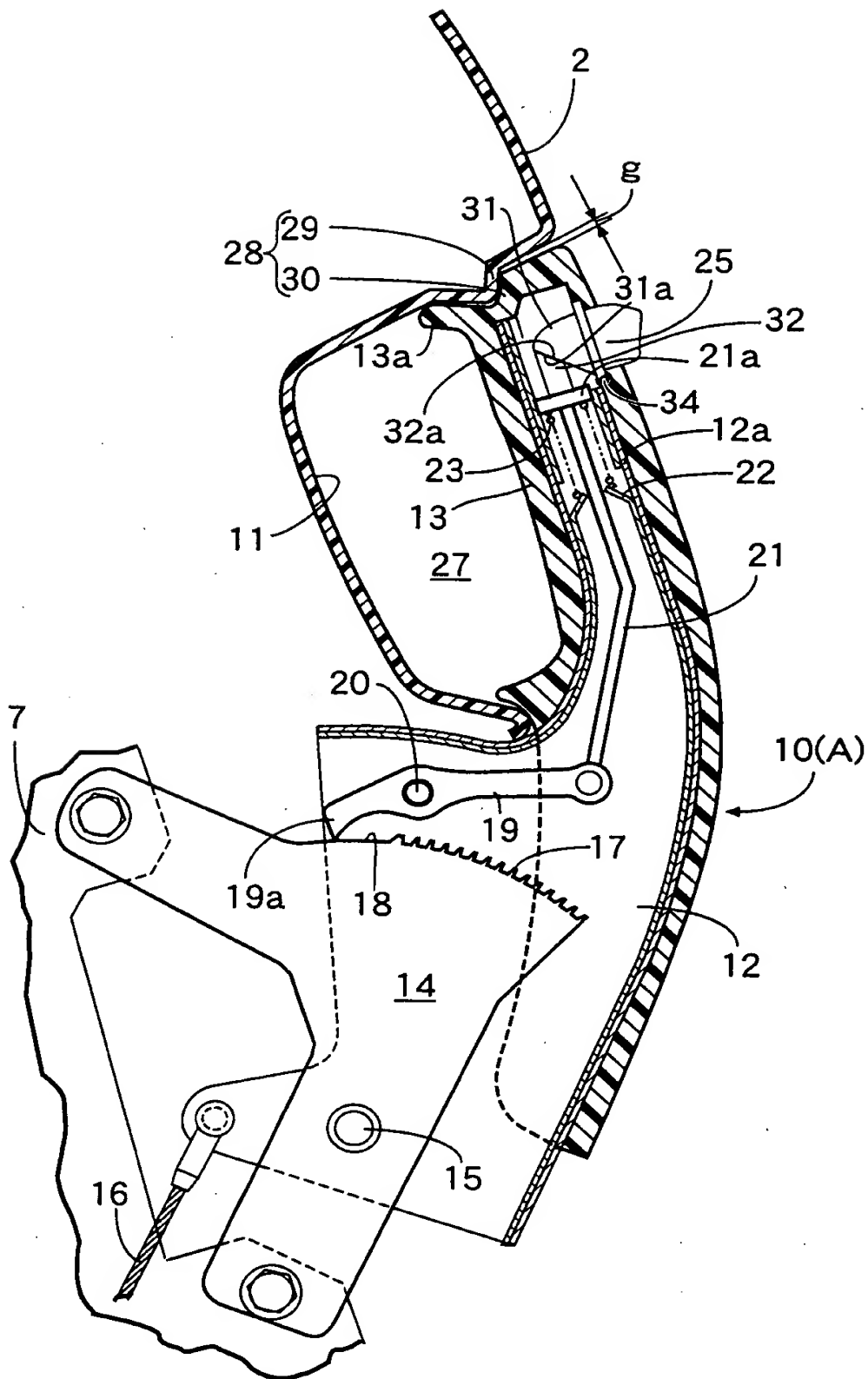
【図 8】



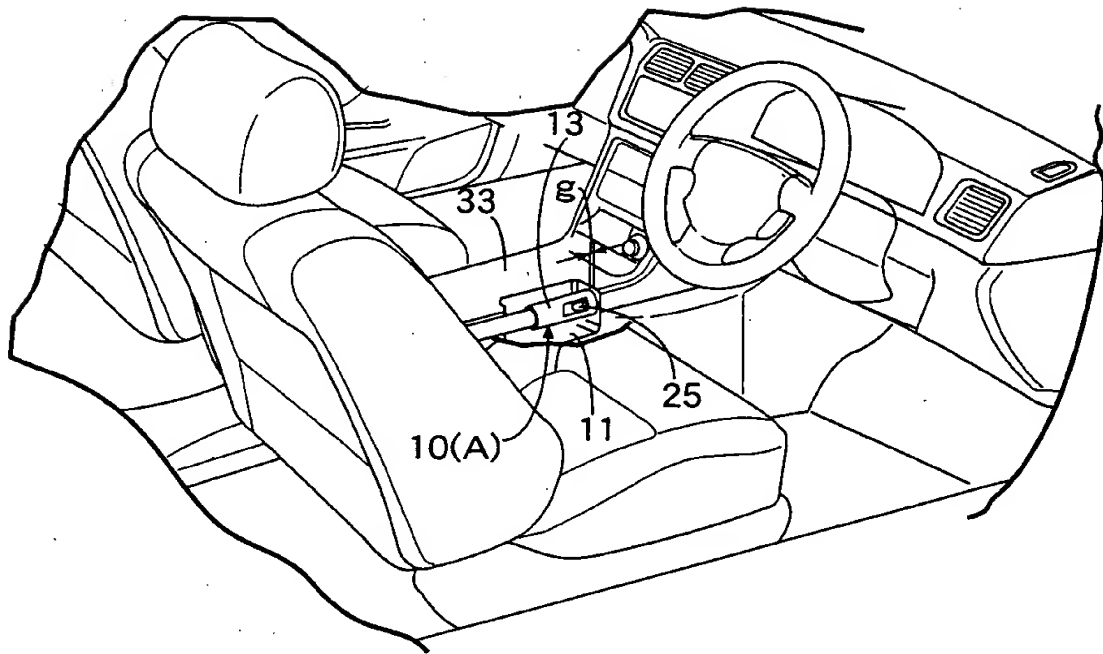
【図9】



【図10】



【図 11】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 解除ノブを備える、パーキングブレーキ用操作レバーとインテリア装備品との一体感を醸し出して、インテリア装備品の美観の向上を図る。

【解決手段】 車両のインテリア装備品 2 に、パーキングブレーキ用操作レバー 1 0 を作動位置 B と解除位置 A との間を回動し得るように取り付けると共に、該操作レバー 1 0 をその解除位置 A で収容する凹部 1 1 を設けた、パーキングブレーキの操作レバー装置において、操作レバー 1 0 を作動位置 B から解除位置 A に戻す際に操作する解除ノブ 2 5 を該操作レバー 1 0 のグリップ 1 3 の、凹部 1 1 の開放面に対応する側面に配設し、凹部 1 1 内壁とグリップ 1 3 の頭部との間隙 g を解除ノブ 2 5 に干渉されずに狭め得るようにした。

【選択図】 図 1

認定・付加情報

特許出願の番号	特願2000-345095
受付番号	50001461231
書類名	特許願
担当官	第三担当上席 0092
作成日	平成12年11月14日

<認定情報・付加情報>

【提出日】	平成12年11月13日
-------	-------------

出 願 人 履 歷 情 報

識別番号 [000005326]

1. 変更年月日	1990年 9月 6日
[変更理由]	新規登録
住 所	東京都港区南青山二丁目1番1号
氏 名	本田技研工業株式会社